【様式】

令和元年度　学力向上プラン

深谷市立川本南小学校

R 分析

全国学力・学習状況調査より

・国語では、ほとんどの領域で全国や県の平均かそれ以上の正答率であったが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については課題が見られた。
・国語の記述式の正答率が高かった半面、短答式の正答率が低かった。
・算数では数と計算や数量関係の領域で全国や県の平均を下回っていた。
・算数の記述式の問題では正答率が低く、課題が見られた。

埼玉県学力・学習状況調査より

・４年生：算数の学力レベルは県より上回っているが、国語の学力レベルは県を下回った。
・５年生：国語、算数ともに県の学力レベルを下回った。
・６年生：国語の学力レベルは県と同等であった。算数の学力レベルは県を上回った。

Gゴール

【令和４年度までの目標】
○全国学力・学習状況調査の平均正答率において、すべて県平均を上回る。
○県学力・学習状況調査の平均正答率において、すべて県平均を上回る
○NRT で偏差値 52 を目標とする。

【来年度に向けての数値目標】

国語	伸びた児童の割合			県平均との差			学力レベル		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
４年				-6.1	-4.3	-2.0	15	14	16
５年	67.7	63.2	65.0	-7.1	0.2	-1.3	16	17	16
６年	68.4	74.2	69.0	0.9	-4.3	1.0	20	19	19
算数 数学	伸びた児童の割合			県平均との差			学力レベル		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
４年				-4.6	1.3	1.0	13	14	15
５年	74.1	84.2	80.0	-7.9	-1.9	3.8	14	16	17
６年	52.6	77.4	85.0	-4.2	-5.2	0.0	17	17	19

参考　第２期深谷市教育振興基本計画より

指標名		現　状　値 [H31(2019)年度]	目　標　値 [R4(2022)年度
全国学力学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合	小学校	５０．０％	５８．０％
	中学校	５５．０％	５５．０％

P 計画

【次年度に向けての重点計画】

- 下位層を減らすために、深谷市の授業スタンダードを徹底する。振り返り時間を確保し、児童が自身の伸びを実感しながら学習できるようにする。
- 上位層を増やすために、授業中に根拠を明らかにしながら意見を発表する機会を増やし、思考力向上を図る。
- 校内のグッドプラクティスを分析し、効果的な指導を広めたり相互授業参観を行ったりしながら授業力を高める。

D 実行

8月
- 校内研修（本校の課題の共通理解・全教職員で県学調問題確認）
- 小中合同研修会（小中一貫教育における学力向上部会）

9月
- 校内研修（本校の学力向上の課題と対策・全国学調、県学調の共通理解）

10月
- 校内研修（学力向上・グッドプラクティスの共通理解）

11月
- 読書月間
- 家庭読書週間
- 学力向上研修（合同授業研究会参加）

12月
- 授業中の全学調、県学調問題の活用

1月
- 学期末漢字検定
- コバトン問題集・復習シートを利用した授業、家庭学習

2月
- 学力向上旬間の取り組み
- 学期末漢字検定

3月
- 小中合同研修会（学力向上についてまとめ）

深谷市の授業スタンダードに沿った授業の実施

コバトン問題集・復習シートを朝学習で活用する取組

学校研究課題「確かな読みの力を育む国語指導の充実」への取組

小中一貫教育・各部会の取組（学習規律、学習指導など）

C

全国学力・学習状況調査　埼玉県学力・学習状況調査

ＮＲＴ

A